

G-5 女子高校生とその母親の職業意識について(第1報)

福岡教育大教育 ○高木葉子 精華女短大家政 井上洋子

目的、女性が、主体的な人間的生き方を志向する時、職業につき、経済力を持つことは重要な条件である。産業の発達、女性の労働需要を高め、細分化、単純化された労働部門に、多くの女性が低賃金で雇用されている。この現実の中で、女性が正しい職業意識を持つことの重要性が増大しているにもかかわらず、女性の生き方の基盤を家庭におき、職業を副次的なものとする考え方が、テレビ、雑誌を埋め、学校教育もこの域を出ていない。女性の職業意識(生き方)は、母親の影響が大であると予測される。そこで、女子高校生とその母親の職業意識の実態を知り、両者の関係を明らかにするとともに、学校教育のあり方や、社会の諸問題について考察する。

方法、福岡市内の公立高校2校、私立女子高校1校の女子高校生(3年)とその母親392名にアンケート調査を行ない、そのデータを分析、考察を加えた。調査内容は、生き方志向、職業観、等15項目で、回収率は89%であった。

結果、(1) これからの女性の生き方として、母親の約半数が、職業を持つこと(条件つきを含む)をよしとし、家事専念をよしとする母親は約1/4にすぎない。職業意識は別として、職業志向は高まっていると考えられる。(2) 母親の生き方志向と娘の生き方への希望は必ずしも一致していない。例えば、母親の約23%が、職業を持つべきと答えながら、娘にそれを希望する者は7%にすぎない。(3) 職業を持つことを志向する母親は、有職者の約57%、無職者の約51%、家事専念を志向する母親は、前者の約25%、後者の29%で、母親の現状と意識との間に明らかにずれが見られる。